

目的とねらい

東アジアに位置する国と地域、日本と中国、韓国、北朝鮮、台湾などは長い文化交流の歴史を持っています。漢字は近代にいたるまでこの地域のコミュニケーション・ツールであり、仏教や儒教は各国で独自の国家思想として発展しました。各国地域の社会生活の中ではぐくまれた文化芸術は伝統的特徴を持ちながら発展し、近代では西欧的モダンの要素も加えるにいたりました。現代メディアの発達により映像文化やエンタティメントは同時代的な特徴と個性を持つにいたっています。

この講座では東アジアの演劇、映画、芸能、音楽、言語文化、服飾文化などをアカルティックに組み合わせながら紹介していきます。

会 場

河原町学舎

定 員

50名

受 講 料

10,000円

責 任 講 師

斎藤 敏康（日中友好協会京都府連合会）

日 程

全8回 第1水曜日 7月は第2月曜日
13:30～15:30

（日程等是一部変更になる場合があります）

①	馬頭琴の音色にのせてモンゴル民謡を語る モンゴルの民族楽器・馬頭琴が奏でるリズムを紹介し、その音色にのせて伝統の民謡を歌います。 ミンガド・ボラグ（関西学院大学講師）	4/3（水）
②	「見る」と「聞く」の漢字の成り立ち “見る”や“聞く”は大切な人間の器官の機能ですが、古代中国人はこうした器官や身体行為をどのように表記したのか。漢字にその源を尋ねます。 張 莉（大阪教育大学教授）	5/1（水）
③	韓国映画産業と文化政策 1990年以降、韓国映画の発展は目覚ましいものがありますが、映画産業とそれを推進した文化政策について紹介します。 キム スヒョン（京都大学大学院生）	6/5（水）
④	台湾の民主主義的社会運動と文学（仮題） 1980年代にはじまる台湾の民主化運動は政治とともに、社会文化の大きな変革をもたらしました。「同志文学」など文学の多彩な展開について紹介します。 三須 祐介（立命館大学教授）	7/8（月）
⑤	中国伝統演劇が描くアウトローの世界 中国の伝統演劇には様々な人物像が描かれますが、なんといっても精彩を放つのはアウトローの連中です。社会の枠を飛び越えた豪傑無頼をフォーカスします。 藤野 真子（関西学院大学教授）	9/4（水）
⑥	ことば（日本語/中国語）にこだわりながら中国現代文学を読む（仮題） 魯迅をはじめ近代の中国文学は日本留学生によって担われた面があり、日本語と中国語が微妙に融合しています。文学作品の中にその妙味を探ります。 宇野木 洋（立命館大学特命教授）	10/2（水）
⑦	閻連科の文学と翻訳ー21世紀中国のアウトサイダー文学ー 閻連科は毛沢東への痛烈な風刺をはじめ、今の中国社会のタブーに巧みに挑戦する作家、その文体もまた独特なものがあります。閻連科ワールドに招待します。 谷川 毅（名古屋経済大学教授）	11/6（水）
⑧	K-POPとWEBTOONー韓国文化政策のグローバルイゼーションー 韓国はK-POPだけではなくWebtoon（ウェブ漫画）の分野でも世界的に市場を広げています。近年目覚ましい韓国のエンタメ文化の世界戦略を紹介します。 キム スヒョン（京都大学大学院生）	12/4（水）